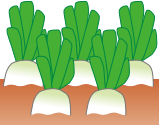
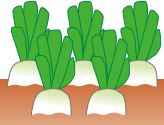


6 おいしい野菜をたくさん収穫 堆肥と肥料の組み合わせが大切



ここでは、本書冒頭に掲げたテーマ、「丸ごと元気でおいしい野菜」づくりに向けて、堆肥と肥料の組み合わせを考えてみましょう。

●化学肥料だけでも、堆肥だけでもダメ

栃木県茂木町の綱川利男さんの圃場で、12月採りキャベツによる、堆肥と肥料の組み合わせ試験をしました。土は、前の項でミズナの試験をした灰色低地土。重く通気性の悪い土です。堆肥3種で試験していますが、茂木町美土里館（有機物リサイクルセンター）製造の、牛糞・落ち葉などを主原料とする「美土里たい肥」の結果を紹介します。

試験は、施肥成分量を10a当たり窒素・リン酸・カリそれぞれ標準の20kgとし、「化学肥料のみ区」、堆肥1t、2t、4tで不足分を化学肥料で補う「化学肥料補正区」、堆肥を同様に施し化学肥料を20kg上乗せ施用する「化学肥料全量区」、「堆肥のみ4t区」を設けました。

右の写真をみると、化学肥料のみ区は、球が小さいうえに内部にすき間が多く、球のしまり不足です。堆肥2t+化学肥料補正区は、球が大きく育ってよく充実し、堆肥の根づくり効果が発揮されて肥料が有効に吸収されたことが分かります。堆肥2t+化学肥料全量区は、さらに球が大きく育っています。



化学肥料(単肥)のみ区 堆肥2t+化学肥料補正区 堆肥2t+化学肥料全量区

キャベツの球の大きさとしまりの違い

●収量とおいしさ・品質の両立する組み合わせとは

しかし、「丸ごと元気でおいしい野菜」という観点からみるとどうでしょうか。13頁の表で、糖分は堆肥2t+化学肥料補正区のほうが高くなっています。この点、堆肥のみ4t区は、分解して供給される窒素の量が少ないことから生育と収量は相当に低いですが、糖分とビタミンC含有量は最高にな